

西洋古典籍の目録作成（２）

校合式を作るための基礎知識

校合式

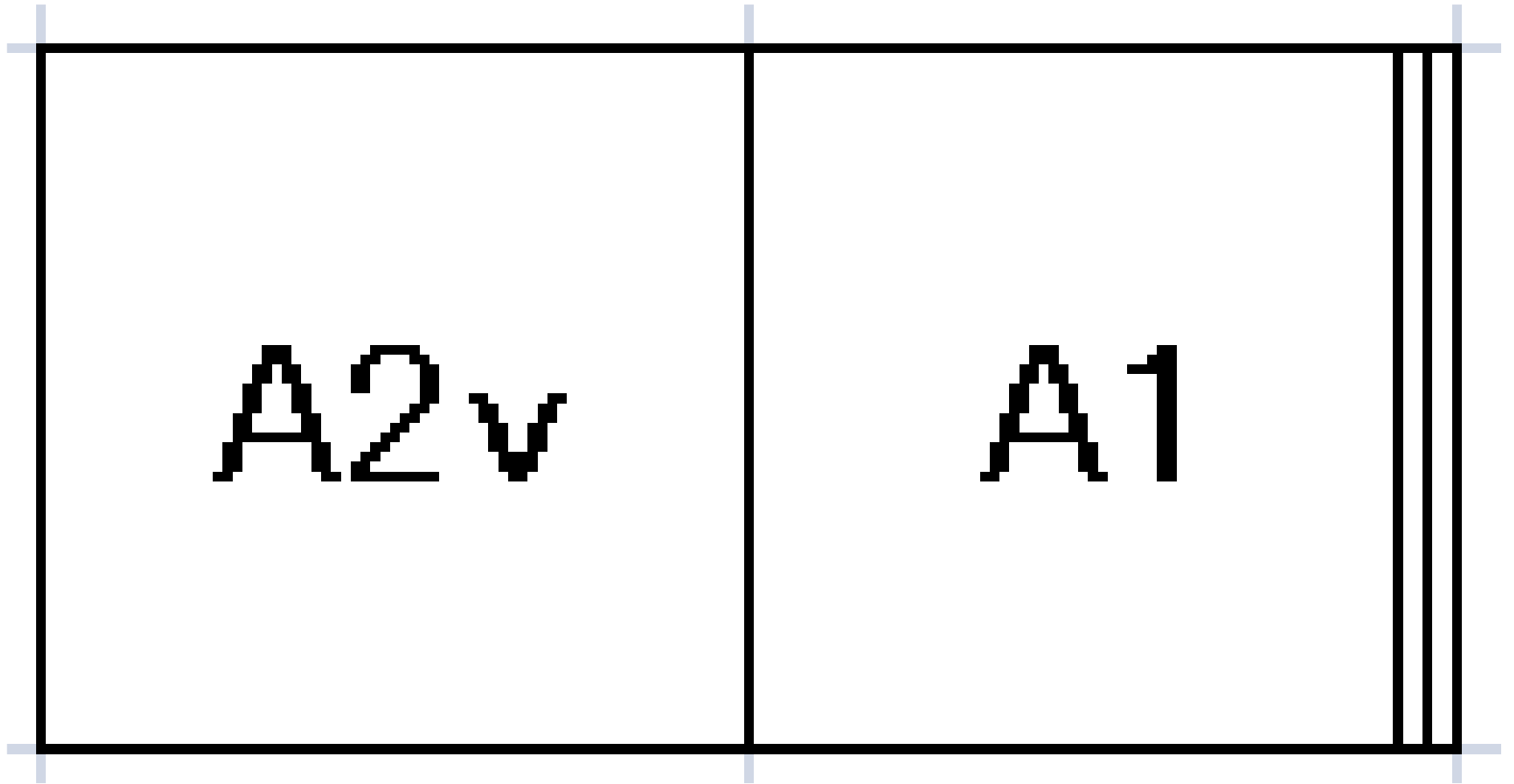
I. 校合式

校合式とは本を製造工程の知識を用いて分析し、折記号で表示する式。

II. 判型

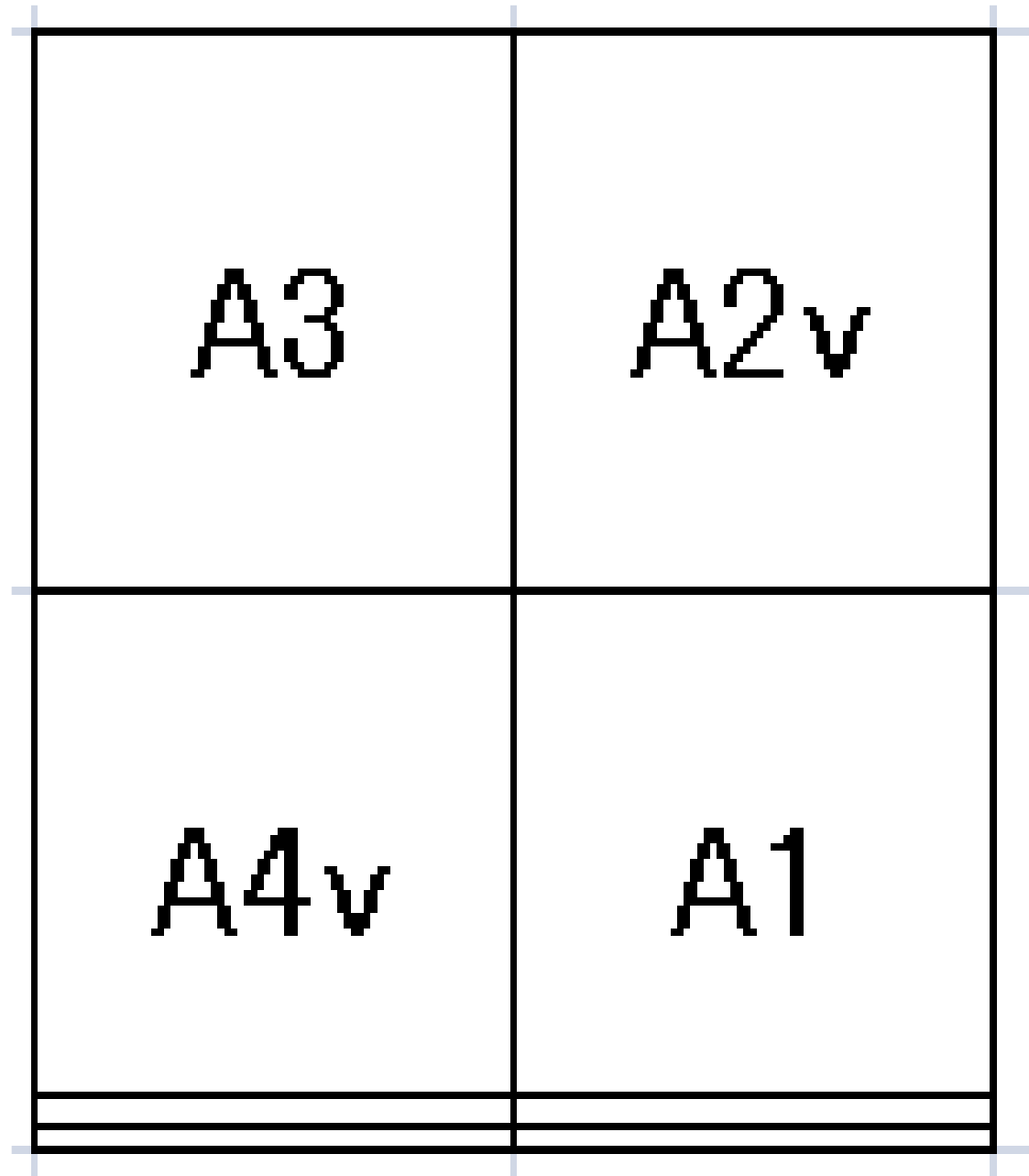
「組版を割り付け」て印刷し、「折り畳む」と「折丁」という紙の束ができる。そして二折判、四折判などの「判型」ができる。従って、版型とは全紙の折り畳み方と全紙の使用枚数を示す用語

二折



右の二重線は鎖線の方角

四折



八折

A3	A6v	A5	A4v
A2v	A7	A8v	A1

判型

$$2^{\circ} : A^2$$

$$4^{\circ} : A^4$$

$$8^{\circ} : A^8$$

但し

判型は大きさを表していない。

× 二折の方が八折より大きい

右肩数字

① 折丁中の紙葉数を示す。

A⁸ A折丁は8枚

② 右肩数字は偶数

どの判型も最終的には二折の状態なので、
紙葉数(右肩数字)は偶数。

折記号の表示場所

折記号とは製本で丁合取りをするための記号（文字、数字、記号）。
図1に示したように、折記号は本文より下の行に示されている。

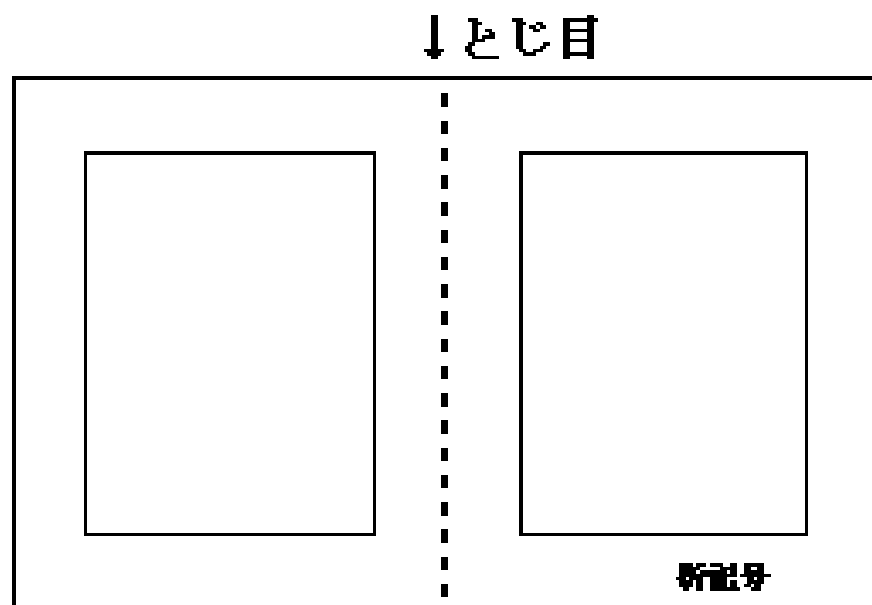


図1：本の見開き

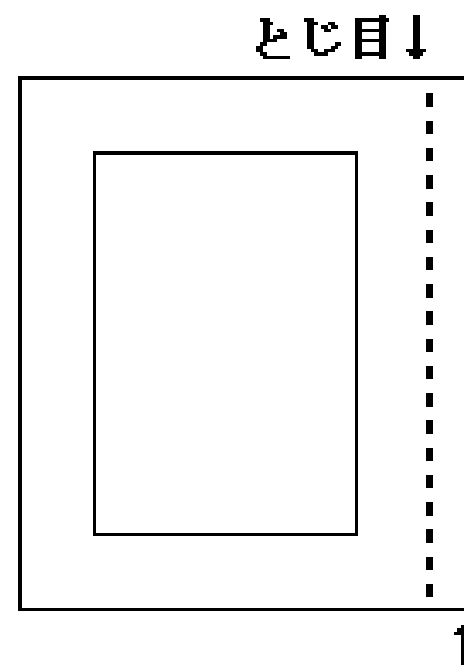


図2：スタップ

折記号の表記

1. 表示形

① 文字 A-Z

アルファベット23文字で、I(またはJ)、U(またはV)。Wは使わないただし、大文字と小文字は区別して使う。

スモール・キャピタルは使わない。

② 数字 数字はこのまま使う。

③ 記号 そのまま使う。ただし、順序関係はない。

④ 重複文字 原則は大文字で。 $Aa \rightarrow 2A$

⑤ 連続文字 連続する文字や数字はハイフンで簡略化

$A-Z \ Aa-Zz \rightarrow A-Z \ 2A-2Z \rightarrow A-2Z$

折丁中の紙葉の姿(原則)

1. 折丁の紙葉とは「印刷機を通った紙葉」
2. 折丁内の紙葉はとじ目を境にして2枚の紙葉がつながっている。
＝とじ目を境にした左右の紙葉数は同数

折丁を折記号で列挙

1. 白紙を用意し、各折丁を折記号と紙葉数(右肩数字)で列挙する。
2. 折記号は表示された形を忠実に示す。
3. 通常と異なる折丁の状態(紙葉の削除、追加)を調査する。
折丁の紙葉数が**奇数**の時は特に注意する必要がある。

校合式にするために

1. 折記号が連続し、紙葉数が同じであれば、ハイフンで結ぶ。

$A^4 \ B^4 \ C^4 \ D^4 \ E^4 \ F^4 \rightarrow A-F^4$

2. 折記号は連続しているが、紙葉数が異なれば、独立に示す。

$A^4 \ B^4 \ C^2 \ D^4 \ E^4 \ F^4 \rightarrow A-B^4 \ C^2 \ D-F^4$

調査

1. 折記号表示（および折記号数字）
2. 折丁中の紙葉数
3. 白紙
4. 正誤表の紙葉（目録規則）
5. 出版目録
6. 図版